

8 今後の検討課題

本業務において、オリンピック・パラリンピックの開催期間を含む7月1日から9月15日までの主要競技会場周辺等における暑熱環境を測定した。気象モデルによって関東南部の暑熱環境の分布を推定することなどにより、測定機器を設置していない会場周辺の暑熱環境推定についても可能性を示すことができた。また、会場周辺のWBGT予測値算出手法の方向性が定まった。

11地区では予定通り7月1日から測定を開始したが、施設管理者等との調整に時間がかかり、測定開始が遅くなった地区があった。次年度は全地区で同時に測定が開始できるよう、調整を早めに始める必要がある。また今年度は、2017年と違い期間を通して晴天日が多く猛暑が続いたことから有効なデータが得られたものの、期間中に台風が数回接近した。このため、一部地区ではやむを得ず計画的な欠測とした他、海岸付近に設置した携帯型では機器不調が生じた。また、2017年と2018年では大きく天候が異なったため、引き続き次年度も同じ地区で測定を行い、複数年のデータを収集・蓄積し、関係者と共有していく必要がある。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時には、リアルタイムでのWBGTや、予測値の提供が求められることから、技術開発を進める必要がある。

以上から、次年度以降の業務に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・引き続き主要競技会場周辺等において測定を行い、データの蓄積及び関係者との共有を行うこと
- ・測定開始を全地区で7月当初とし、暑熱環境の厳しい日のデータを測定する機会を増やすこと
- ・測定データのリアルタイムでの共有を検討すること
- ・会場周辺におけるWBGTの予測の手法を確立すること。
- ・2020年オリンピック・パラリンピック期間中の情報提供について検討すること